

「ここが知りたい」。国際協力に関係する
 いろんなトピックを分かりやすく解説します!



日・カリコム首脳会合で一堂に会した各国の首脳たち
 (写真提供: 内閣広報室)

ODA政策

「安倍総理、中南米歴訪」 中南米との絆を 深める

7月25日～8月4日、安倍晋三内閣総理大臣は
 中南米地域を歴訪し、各国首脳と会談しま
 した。

多 くの日系人が暮らす中南米地
 域は、日系企業の主要な進出
 先の一つ。安倍晋三内閣総理大臣は
 今回の歴訪を通じて、各国との関係
 強化を図りました。

トリニダード・トバゴの訪問は、
 日本の総理大臣として初めて。カリ
 ブ共同体(カリコム) 14カ国の首脳
 などと「日・カリコム首脳会合」を
 行い、小島しよ国特有の脆弱性を克
 服するため、日本の技術や知見を生
 かし、防災、環境、エネルギー、廃

棄物処理、水産などの分野で協力し
 ていくと表明しました。また、国連
 開発計画(UNDP)との連携の下、
 カリブ8カ国を対象とした15億26
 00万円の環境・気候変動対策無償
 資金協力を実施することで合意しま
 した。

その他にも、メキシコ、コロンビ
 ア、チリに加えて、2014FIF
 Aワールドカップが開催されたブラ
 ジルを訪問。ルセーフ大統領との会
 談では、造船、インフラ整備、石油・
 ガス開発、医療などの分野における
 両国の経済関係の強化について意見
 交換しました。

さらに今回の訪問には、日本の経
 済界や政府機関、学術関係機関のト
 ップ約70人が同行。成長著しい新

興国ブラジルへの事業展開に高い関
 心が示され、日本からの投資の増加
 にルセーフ大統領からも期待が述べ
 られました。両国のビジネス関係者
 が集まったセミナーでは、安倍総理
 がかつて「不毛の大地」と呼ばれた
 セラードが、日本の協力により一
 大穀倉地帯に変わろうを遂げた例に触れ
 るとともに、今後は人的交流をさら
 に拡大していきたいと述べました。

また、夏季オリンピックが201
 6年にブラジルのリオデジャネイロ
 で、その4年後の2020年に東京
 で開催されることに触れ、日本政府
 のスポーツを通じた国際貢献策「S
 port for Tomorrow」プログラムを
 中南米で展開していくことを表明
 しました。

安倍総理の訪問国



メキシコ
 首都: メキシコ・シティ
 面積: 196万km² (日本の約5倍)
 人口: 1億2,230万人 (2013年)
 言語: スペイン語
 主要産業: 製造業、鉱業、運輸・通信業
 1人当たり国民総所得 (GNI): 9,940ドル (2013年)



チリ
 首都: サンティアゴ
 面積: 75万6,000km² (日本の約2倍)
 人口: 1,762万人 (2013年)
 言語: スペイン語
 主要産業: 鉱業、農林水産業、製造業
 1人当たり国民総所得 (GNI): 1万5,230ドル (2013年)



トリニダード・トバゴ
 首都: ポート・オブ・スペイン
 面積: 5,128km² (千葉県よりやや大きい)
 人口: 134.1万人 (2013年)
 言語: 英語、ヒンディー語、フランス語、スペイン語
 主要産業: エネルギー、鉄鋼製品、食品、セメント
 1人当たり国民総所得 (GNI): 1万5,760ドル (2013年)



ブラジル
 首都: ブラジリア
 面積: 851.2万km² (日本の約22.5倍)
 人口: 2億40万人 (2013年)
 言語: ポルトガル語
 主要産業: 製造業、鉱業、農牧業
 1人当たり国民総所得 (GNI): 1万1,690ドル (2013年)



コロンビア
 首都: ボゴタ
 面積: 113.9万km² (日本の約3倍)
 人口: 4,832万人 (2013年)
 言語: スペイン語
 主要産業: 農業、鉱業
 1人当たり国民総所得 (GNI): 7,560ドル (2013年)



キルギスのオリガ・ラヴロヴァ財務大臣と無償資金協力の交換公文に署名



ウクライナの国内避難民支援のための緊急無償資金協力にかかる引き渡し式

7 月15～18日、岸田文雄外務大
 臣はキルギスとウクライナを
 訪問しました。今年は、中央アジア
 諸国と日本が共に地域の安定と発展
 を図ることを目的とした「中央アジ
 ア+日本」対話を開始して10周年の
 記念の年。キルギスで開かれたこの
 対話枠組みでの外相会合では、この
 10年を総括するとともに、次の10年
 の展望について意見交換しました。

岸田外務大臣は、農業、防災、麻薬
 対策、国境管理などの分野において
 協力を強化していく旨を表明し、ま
 た、キルギスとの間で、新たに道路
 維持管理のための機材整備と人材育
 成の2件の協力を合意しました。

ODA政策

「岸田外務大臣、キルギスとウクライナを訪問」 さらに協力強化を目指す

続いて、緊迫した情勢への懸念が
 高まっているウクライナを訪問。ポ
 ロシェンコ大統領の表敬では、国の
 安定を確保し、民主化・経済改革を
 推進するための取り組みを積極的
 に支援したいと述べ、ポロシェンコ
 大統領も日本との関係強化に期待を
 示しました。また、ウクライナの国内
 避難民などに対する緊急無償資金協
 力の引き渡し式にも出席しました。

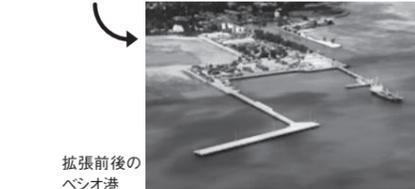
また、クリムキン外相との会談で
 は、ウクライナの経済状況の改善に
 向け、今回書簡の交換が行われた「経
 済改革開発政策借款」も含めて、最
 大約1500億円の支援を着実に実
 施していくとしました。

Message from Kiribati

生まれ変わった海の生命線の港



ペシオ島とバイリキ島を結ぶ道「ニッポンコースウェイ」は日本の
 協力の象徴



拡張前後の
 ペシオ港

在 フィジー日本国大使館は大洋
 州の複数の国を管轄していま
 すが、その1つであるキリバスは太
 平洋のど真ん中に位置し、赤道をま
 たぐよりに東西南北に点在する33の
 環礁からなる国です。
 人口は約10万人。かつて輸出して
 いたリン鉱石は枯渇し、現在、政府の
 収入源は日本などからの漁業権益
 が大半を占めています。豊かな漁
 場には、日本の漁船も多数訪れてい
 ます。

キリバスのような島しょ国で必要
 不可欠なのが、人の往来の玄関であ
 り生活に必要な物資を調達するため
 の港。これに対して日本は、海洋国家
 としての経験を生かした支援を行
 っています。

在 国内唯一の国際港であるペシオ港
 は、近年の輸送コスト削減を目的と
 した船舶の大型化に対応していな
 かったため、コンテナ船を沖合に停
 船させ、海上で作業用の船への積み
 替え作業を行っていました。これによ
 り作業効率が落ちるだけでなく、安
 全面でも問題となっていました。

そのため、日本の協力により大型
 船でも直接着岸できるよう、沖側へ
 連絡橋および係留橋を増設し、作
 業の効率化と輸送コストの低減を
 図りました。結果、コンテナの陸揚げ
 に3、4日要していたのが、2日に
 なり、物流コストの削減にもつな
 がっています。

在フィジー日本国大使館

國場 幸恒 二等書記官

現地からのメッセージは、ODAメールマガジン(www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/mail/)でご覧いただけます。